

第3回「一日体験ボランティア」報告

「福祉施設利用者と一緒に栗拾い体験」

平成25年10月4日（金）実施

秋晴れの爽やかな日に参加者5人と共に「であいの家あうん」の車で高照神社近くの栗畑へ向かいました。「栗拾いは初めて」という方も多く、どんなことをするのかと楽しみと共に少し不安に思っている方もいました。

栗畑に到着すると既に施設利用者の皆さんは他のボランティアと共に作業を始めていました。

担当の方から栗の拾い方を教えてもらって、トンゴと籠を持ち栗拾いが始まりました。240本の栗の木の下には、栗がイガに包まれた状態でたくさん落ちており、足でイガを押さえて栗の実を引き出します。初めは「イガの針は長靴を通さない?」「この栗には虫が入ってるの?」などワイワイガヤガヤ、次第に無言で黙々と作業をしてたくさんの栗を集めていました。

施設利用者の方とは、テレビ番組や家庭での出来事、哲学的(?)な話で盛り上がり、初めて会った人同士とは思えない和やかな雰囲気でした。

障がい者の方と交流するのは初めてという方も「障がい者の方と普通に接することができた。」「普段知らない施設について知ることができて良かった。」と感想を述べていました。

栗拾いの後には参加者自ら申し出てイガを竹ぼうきで集め、施設利用者の人達と共に猫車で運ぶ作業を行いました。

12時半に昼食となり、作業後の空腹感と緑豊かな自然に囲まれて食べる棒パンと焼肉は格別で、施設利用者の人達とおしゃべりしながら「おいしい、おいしい」と食べていました。

最後に参加者の皆さんの「とても楽しく参加できて良かったです」という感想と共に、「であいの家あうん」職員の方や、施設利用者の方、ボランティアの方にお礼を述べて栗畑を後にしました。

体験後のアンケートは「パン工房ゆいまある」内でゆっくり記入していただきましたが、「普段接することのない環境や施設の方と交流が持てた事で視野が広がる感覚がありました」「障がい者施設でのボランティアもしてみたい」など、体験によってボランティアを前向きに考えるようになった様子が伺えました。

「一日体験ボランティア」は、ボランティアに興味がある、あるいはボランティアを試みたいと考えている市民を対象に、ボランティア活動のメニューを提供し、ボランティア活動をはじめのきっかけとしていただくものです。

内容等は、広報ひろさき、チラシ、ブログなどでご確認ください。